

2000円札にも温度差

首里城の守礼門が描かれている2000円札の流通枚数が、沖縄県で増え続けている。2000年7月に九州・沖縄サミットの開催を記念して発行されたが、戦後の米軍の占領政策とも無関係ではなさそうだ。地元の人びとは「2000円札を見て、沖縄に思いをはせてほしい」と、現在も普及に努めている。(沢田千秋)

二千円札の発行は一九九九年、沖縄での主要国首脳会議(サミット)開催を強く主張した小渕恵三首相(当時)が発案した。だが、小渕氏は発行を待たず、〇〇年五月に急逝。サミットは同年七月、沖縄で無事開催された。

日本銀行によると、今年四月時点の二千円札の流通枚数は九千八百二十万枚。国立印刷局によると、二千円札は八億八千枚が製造された。現在の流通枚数をのぞく約八億枚は、日銀の金庫に保管されているか、摩耗回収されたという。

日銀の担当者は「日本では『二』がつくお金のなじみが薄く、使い勝手が悪かったのか、浸透しなかった」と話す。

その『二』と日本人との相性について、大阪経済大学の西山豊教授(情報数学)は「昔から日本人のDNA

沖縄 普及に力 流通倍増



守礼門の前で、真新しい2000円札を手にする民族衣装の女性。2000年7月、那覇市で

には、奇数信仰と偶数嫌悪が刷り込まれている」と解説する。

「日本人は『七五三』の習慣や俳句、短歌の字数、三三七拍子などやたら奇数を好むが、『二』は分かれる、『四』は死などを連想させ、偶数を嫌う。五、六世紀ごろ、中国から伝来し、日本で発展した陰陽道

本土 大量お蔵入り

だが、沖縄県は例外だ。日銀那覇支店によると、全国的な流通枚数のピークだった〇四年八月、沖縄県の流通枚数は二百二十九万三千枚。以降も増え続け、今年三月では五百十九万一千枚で倍以上になった。

西山教授は「沖縄は戦後約三十年間、米軍占領下にあり、二十円札を使っていた。そのため、偶数通貨に抵抗が少なかったのではないかと考える。

沖縄の地元政財界が、二千円札の普及促進に力を入れてきた成果も大きい。企業に二千円札による釣り銭、給与の支払いを求め、二千円札限定商品の販売、券売機や自販機での二千円札対応も呼び掛けてきた。

太平洋戦争末期に約二十万人が犠牲になり、現在も全国の在日米軍専用施設の74%が集中する沖縄。沖縄国際大の照屋寛之教授(政治学)は、本土と沖縄での二千円札への温度差を沖縄問題に重ねる。

「小渕氏や橋本龍太郎氏ら、かつての自民党政治家にはまだ沖縄に寄り添う気持ちがあった。沖縄サミットを開き、二千円札に贖罪の思いを込めたのかもしれない」

発行から十六年たった現在、本土では二千円札の存在は薄れ、沖縄では増え続けている。

照屋教授は「大量にお蔵入りしている二千円札は、基地問題で見放された沖縄のようだ。政治家がもっと努力してくれたら、普及したのではないかと。沖縄を冷遇する現政権にいたっては、二千円札など目障りなだけだろう」と皮肉る。

財布の中の二千円札を敬遠する国民に対しても、照屋教授は呼び掛ける。

「本土の人が二千円札の守礼門を見て、少しでも沖縄の基地問題を考えれば、この紙幣を発行した意味があったことになる」

米軍占領下で偶数通貨になじみ

日本の通貨史上、『二』の単位が大半で偶数通貨はほとんどなく、戦前の二十円券、二百円券も浸透しなかったという。